

2023年度チャレンジ講座(第6回)を実施しました

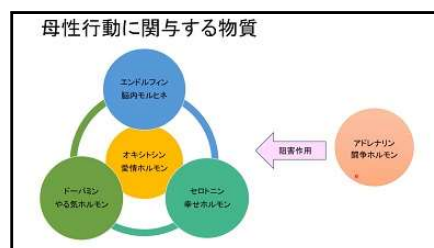
8月23日(水曜日)、第6回(理系第3回)チャレンジ講座を実施しました。今回はオンラインでの受講に加え、会場である経済学部203教室で2校32名の高校生が受講しました。

今回は、医学部看護学科の猪俣理恵先生に、「母性神話と子育て：母性は先天的なもの？後天的なもの？」と題して講義していただきました。



初めの問いは、「動物は生まれながらにして、子育てするようにプログラムされているのだろうか」。答えは、さしあたりYES。猫の子育ての事例を交えつつ、オキシトシン(愛情ホルモン)を中核とするホルモン群によってある程度プログラム化された子育て本能があることを説明されました。

続く問いは、「母性が本能(生得的)ならば虐待や育児放棄が起こらないのでは?」。人間の育児放棄件数の実証データや猫の育児放棄動画を参照することで、育児放棄が起こる可能性が示唆されました。とりわけ、人間の子育てにおいては、育児技術・母乳育児への不安や出費などの要因によって育児不安・育児ストレスを抱え、オキシトシンが分泌されにくくなるといった問題を示されました。



以上を踏まえ、母性は先天的な要素をもとにして、後天的に育むことにより発揮される、とまとめられました。「母親だから育児ができて当然」というまなざしに抗して、親同士の協力や看護職による生涯にわたる支援の重要性を指摘されました。



最後に、教室で受講した高校生は、妊婦模擬体験や人形を使った新生児抱っこの体験をしました。経験や講座で学んだ知識を用いて自身の親性と向き合いつつ、両校の生徒とも楽しんだ様子で講座は終了しました。

オンラインでは18校288名の高校生が受講しました。「看護師になるためにはいろんな道があるけど、大学で学ぶ看護の内容についてを知ることができて良かったです。また、近年増えている育児不安や育児ストレスについて、そして母性についても少し理解できました」、「将来助産師になりたいと思っているのでとても役に立った」、「母性や育児放棄・児童虐待にホルモンが関係しているということを知って面白いなと思いました」、「父性があることをはじめて知った。自分も親性を研究してみたいと思った」等の感想が寄せられました。

